令和４年度 病害虫発生予察 注意報 第５号

令　和　４　年　８　月　２２　日
大分県農林水産研究指導センター
農　　業　　研　　究　　部

１　対象病害虫　斑点米カメムシ類
２　対 象 作 物　普通期水稲
３　対 象 地 域　県内全域
４　発 生 面 積　やや多い
５　発　生　量　多い
６　発表の根拠

（１）８月中旬の巡回調査では、40 圃場中７圃場で斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ）が確認され、今後の多発生が懸念される。また、イネカメムシについては、県北東部を中心に県振興局等から発生が多いとの情報がある。

（２）８月２～３日に実施した普通期水稲（40 圃場）の巡回調査において、畦畔雑草のすくい取りを行った結果、斑点米カメムシ類は１か所あたり成幼虫計 5.0 頭で平年（同 2.4 頭）と比較して多く、過去 10 年間で最も多かった。

（３）斑点米カメムシ類は高温乾燥条件で多発するが、福岡管区気象台が８月 18 日に発表した１か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年並～高いと予測されており、発生の好適条件が続く可能性がある。

７　防除対策

（１）斑点米カメムシ類は、水稲の出穂前に圃場周辺に生育するイネ科雑草の穂で増殖し、水稲の出穂後に成虫が圃場に侵入して穂を加害するとともに、成虫が産卵しふ化した幼虫による穂の加害により斑点米が発生する。農薬は、穂揃期とその７～10 日後の２回散布を基本とする。

（２）周辺の圃場より出穂が早い圃場においては、斑点米カメムシ類の圃場への侵入が特に多くなるので、防除を徹底する。

（３）イネカメムシは出穂前から圃場に侵入するので、本種の発生が確認されている地域（県北東部）では、出穂直前に１回目の農薬散布を行う。

（４）１回目の農薬散布は、出穂期前後の基幹防除を有効に活用する。

（５）防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ
http://www.jppn.ne.jp/oita/

主な斑点米カメムシ類と斑点米



ホソハリカメムシ（体長 9～11㎜）



クモヘリカメムシ（体長 15～17㎜）



イネカメムシ（体長 12～13㎜）



斑点米（カメムシによる吸汁痕）